

御池通界わい今昔マップ

堀川通～烏丸通界わい編



明治前期の龍池小学校
資料提供：京都市学校歴史博物館

このマップについて

御池通沿道のマップづくりワークショップ

御池通界わいの大切にしたいもの、楽しい思い出、地域の誇り、身近な歴史など、御池通の魅力や地域の誇りを伝えるマップづくりを目指して、平成16年12月からワークショップを開催しました。ワークショップには、現在の界わいに住んでおられる方だけでなく、かつて住んでおられた方や、沿道の事業者の方など約50名にご参加いただきました。

界わいごとのテーマ

このマップは、御池通を3つに分け、それぞれの区間ごとに設けた班で意見を交わしながら制作しました。そして、班ごとに交わされた意見をもとに、今後の御池通の発展や、これまでの記憶として必要であろうと考えられる項目を各班ごとに整理し、ひとつの記録誌としてまとめました。



- 町名の由来
- 地名の由来
- 町名の由来
- 地域の名所
- 地域の史跡
- 地域の名所
- 井戸
- 柳池
- 昔の御池通周辺
- 昔の御池通周辺
- 昔の寺町通周辺

御池通界わい今昔マップ

【発行】都市計画局都市企画部都市づくり推進課
電話(075)222-3503
http://www.city.kyoto.jp/lokal/todu/index.htm
平成17年12月20日発行 京都市印刷物第174319号



御池通の概要

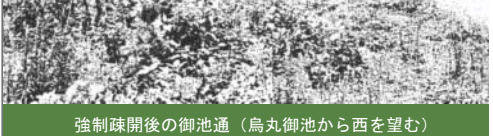
通り名の由来

現在の二条城から三条通の辺りまであった神泉苑の中に御池と呼ばれる池があり、その池に通じていた道であることから、江戸時代の中頃に御池通と呼ばれるようになったと考えられています。当時は、絹問屋や刀問屋の職人が集まる活気のある通りであったといわれています。

近代の御池通

第二次世界大戦末期の昭和20年に御池通の鴨川西岸から堀川通までの民家に対して、空襲からの類焼防止策のため強制疎開が実施されました。

御池通が強制疎開の対象として選ばれた理由は、戦前に拡張整備が行なわれていた丸太町通、四条通の間に類焼防止帯を設けるという考えに基づいたものでした。



強制疎開後の御池通（烏丸御池から西を望む）

終戦後の御池通

昭和22(1947)年に幅員50メートルの都市計画道路として活用することが定められ、事業の完了以降、京都の市内幹線道路として機能し、沿道には業務系の高層の建築などが建ち並びました。

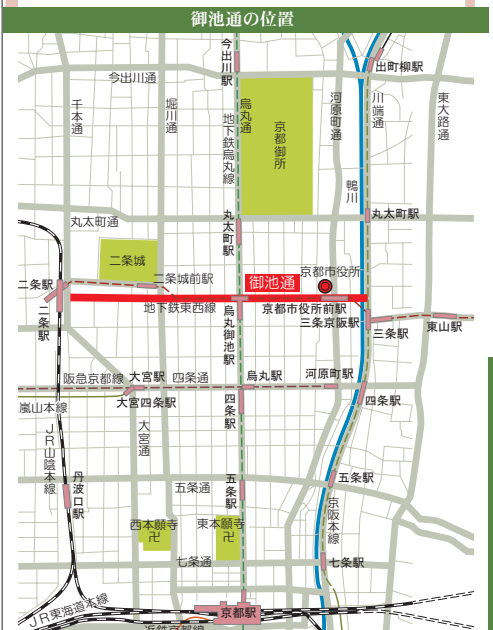
昭和30年代には、祇園祭の見物客増加に伴い、山鉦巡行ルートが広幅員の御池通に変更され、祇園祭・時代祭の巡行ルートとなるなど、京都の『はれ』の道として親しまれてきました。



近年の御池通

京都市では、鴨川から堀川通間の御池通を京都のシンボルロードとしてふさわしい道路とするため、平成9年から15年に街路整備事業を実施し、更に、にぎわいの創出と景観形成に向けた取組を検討するため、平成14年10月に地元住民、沿道事業者、商工会議所、学識経験者及び行政で構成する「御池沿道関係者協議会」を設置して議論を重ね、平成16年8月にシンボルロード活性化のための具体的な目標と実現化の方策をまとめました。現在は、これに基づき、それぞれの役割分担によって具体的な取組を進めています。

御池通の位置



御池通界わいの町名由来

※押小路通から姉小路通を含む町名を掲載しました。現在の町内会と名称や範囲が違う町もあります。

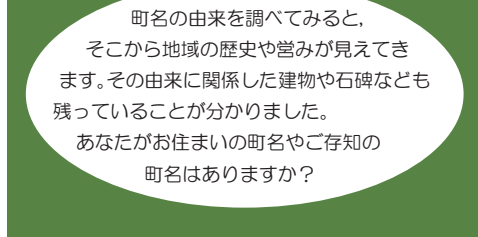
- 1 おしほりちよう 押堀町**
通り名に由来します。平安中期以降は押小路堀川小路の南にあたります。
- 2 にじょうあぶらのこうじちよう 二条油小路町**
通り名に由来します。平安中期以降は二条油小路の南にあたります。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 3 おしあぶらのこうじちよう 押油小路町**
通り名に由来します。平安中期以降は三条坊門油小路の北にあたります。
- 4 ふるしろちよう 古城町**
この地にあった日蓮宗妙顕寺が移転の後、跡地が豊臣秀吉の城館となったことと関係があると思われる。
- 5 しもふるしろちよう 下古城町**
この地にあった日蓮宗妙顕寺が移転の後、跡地が豊臣秀吉の城館となったことと関係があると思われる。豊臣秀吉の城館の跡地が牢獄になったため、「ろふの町」と呼ばれていたこともありました。
- 6 にじょうにしのとういんちよう 二条西洞院町**
通り名に由来します。平安中期以降は二条西洞院大路の南にあたります。室町時代、日蓮宗妙顕寺があった(跡地は豊臣秀吉の城館となりました)ため、「二条西洞院妙顕寺町」「元妙けんじ町」と呼ばれていたのが、現町名となりました。
- 7 おしにしのとういんちよう 押西洞院町**
通り名に由来します。平安中期以降は押小路西洞院大路の南にあたります。室町時代、日蓮宗妙顕寺があった(跡地は豊臣秀吉の城館となりました)ため、「押小路西洞院妙顕寺町」「元妙けんじ町」と呼ばれていたのが、現町名となりました。
- 8 かみまつちよう 上松屋町**
近世、越後柴田溝口信濃守與政所松屋が居住していたことと関係があると思われ、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 9 しもまつちよう 下松屋町**
近世、越後柴田溝口信濃守與政所松屋が居住していたことと関係があると思われ、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 10 かしろちよう 頭町**
「京絵図(1696)」ではぬしや町とあり、漆器製造の人々(塗師屋)が多く居住していたと思われる。1708年に押小路を拓いた際に二町に分けられた。妙覚寺は日蓮宗の本山で妙顕寺、立本寺と共に日蓮宗三具足山の一つです。織田信長が上洛の折に、妙覚寺を宿所としていました。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 11 かみみょうかじちよう 上妙覚寺町**
妙覚寺があったことにより。1708年に押小路を拓いた際に二町に分けられた。妙覚寺は日蓮宗の本山で妙顕寺、立本寺と共に日蓮宗三具足山の一つです。織田信長が上洛の折に、妙覚寺を宿所としていました。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 12 たこやしちよう 蛸薬師町**
当町西側に天台宗永福寺があり、本尊薬師如来を池中島嶼に安置したので水上薬師、また、沢薬師(たくやし)と称したのが誤って蛸薬師、と言うようになりました。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 13 おいけちよう 御池之町**
この界わいは泉水が湧く山紫水明の景勝地であり、この大池の水を取り込んで造られた二条殿の庭池が「御池」と呼ばれていたことにより。平安時代に当町西側にあった鴨川の「鴨居の池」の跡を言うとの説もあります。「洛中絵図(1637)」で既に「御池丁」とあります。
- 14 きんぶきちよう 金吹町**
徳川家康により金座・銀座が置かれたため、「洛中絵図(1637)」では「両替町」とありますが、明治3年(1870)に現町名となりました。金座があった頃の仕事の内容で金属を精錬するところを吹くと言ったことにより。また、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 15 にじょうでんちよう 二条殿町**
「京町鑑(1762)」は昔、当町東側に二条良興の二条殿があったことよるとし、「京雀」は二条御所の所在地であったことよるとしています。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 16 きんぼうほりかわちよう 三坊堀川町**
通り名に由来します。平安中期以降は三条坊門堀川小路の南にあたります。
- 17 もりのきちよう 森ノ木町**
平安時代、町の南側は橋邊勢の邸松殿、北側は藤原基経の邸堀河院の境内にあたるので、樹木が多かったと考えられ、これが町名と関係していると思われる。
- 18 かじちよう 鍛冶町**
鍛冶屋が多く住んでいたことにより。『ひしやもん』と呼ばれていたこととありますが、これは当町に真言宗西興寺(後の多門(蘭)寺)の毘沙門堂があったことと由来すると思われる。
- 19 しきみちよう 式阿弥町**
中世、この地に時宗の「式阿弥道場」があったことと由来すると思われる。
- 20 いしばしちよう 石橋町**
由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 21 つぼやちよう 壺屋町**
由来は不明、「壺付町」と呼ばれていたこととあります。近世に壺舎がありこの地に刑場があったことと由来する。近世、屏風・障子などが「はりつけ屋」が居住したことよるとも考えられます。
- 22 みやぎちよう 宮木町**
江戸時代初期、本町北側に宮木丹波守の邸があったことから「宮木前町」と呼ばれたのが、「宮木町」となったと思われる。
- 23 きんぼうにしとういんちよう 三坊西洞院町**
通り名に由来します。平安中期以降は三条坊門西洞院大路の南にあたります。「三坊西洞院町」指物や丁「三坊西ノトウイン」三坊西のとう院町と呼ばれていたのが、近代に入って現町名になりました。
- 24 はしちよう 橋之町**
由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 25 つがちよう 津軽町**
近世、奥州弘前津軽氏の京都があったことと由来します。
- 26 しんめいちよう 神明町**
醍醐天皇の皇子、源高敏の邸である高松殿の旧地に神宮社があったことにより。平治の乱(1159)で邸は焼け、神宮社だけが残り、神宮社(1637)で既に現町名が見られます。
- 27 にしよちよう 西横町**
「洛中絵図(1637)」で「御池西ノ丁」とあり、「京絵図(1696)」で「にしよこ」とあり、「京大絵図(1699)」で「お池よこ」とあることから、御池の西横に位置していたことと由来すると思われる。
- 28 ながはまちよう 長浜町**
由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 29 えんぶぢちよう 円福寺町**
円福寺があったことにより。円福寺は1251年に後深草天皇の幼弟で紀伊郡深草の地に創立され、浄土宗深草派の本願となりました。のちに五条坊門猪熊を経て室町小路に移り、更に1585年に京極四坊門の池へ移転しました。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 30 たつつけちよう 龍池町**
近世、当町域は金座・銀座の地にあたるため、両替町または下両替町と呼ばれたが、明治3年(1870)に現町名となりました。明治初期、熱心な神の本業(柿本人麿を敬い、霧う運歌の作者集団)の集まりがあり、毎月歌会が催され、社に人麿が祭られていたことと由来します。
- 31 かきもちちよう 柿本町**
近世、当町域は金座・銀座の地にあたるため、両替町または下両替町と呼ばれたが、明治3年(1870)に現町名となりました。明治初期、熱心な神の本業(柿本人麿を敬い、霧う運歌の作者集団)の集まりがあり、毎月歌会が催され、社に人麿が祭られていたことと由来します。
- 32 とらちちよう 虎屋町**
由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。

昔は上京区でした。

【中京区】
かつては三条通を境に上京区と下京区に分かれていたため、御池通周辺は上京区でした。昭和4年4月、上京区の南部と下京区の北部を区域として中京区が誕生し、御池通周辺は中京区となりました。現在も上京区だった頃の町名看板が何枚か残されています。

資料提供：京都市歴史資料館

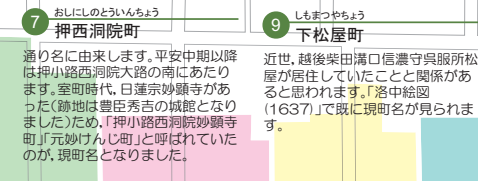
町名の由来を調べてみると、そこから地域の歴史や営みが見えてきます。その由来に関係した建物や石碑なども残っていることがわかりました。あなたがお住まいの町名やご存知の町名はありますか？



織田信長ゆかりの町

【上・下妙覚寺町、二条殿町】
信長が上洛の際に宿所としたのが妙覚寺です。寺に隣接した二条家の屋敷の庭の眺望が気に入ったらしく、二条邸を譲り受けて改修し、2年後は京での宿所としました。その後、この邸は皇太子の誠仁(さねひと)親王に献上され、「二条御所」と呼ばれました。本能寺の変では、信長の長男信忠がここで自刃しています。

資料提供：京都市歴史資料館



二条殿の名庭園

【二条殿町】
関白二条家の本邸であった二条殿は、天皇や上皇もたびたび訪れていました。起伏に富み、小石と砂が敷かれ、池の周りに楼閣風の建物を配置した庭園は、十境(龍理池・御欄閣・洗暑亭・蔵春閣・緑橋橋・政平水・観魚台・水明楼・古臺亭・梅香軒)ありと言われ、美しい景観の名庭園でした。

資料提供：京都市歴史資料館



現存した柿本人麿像

【柿本町】
明治の初期、この町内に熱心な柿の本業(柿本人麿を敬い、霧う運歌の作者集団)の集まりがありました。毎月歌会が催され、社には人麿が祭られていました。その人麿の木像は現在も個人宅に所蔵されています。町名由来の文獻などには出てきませんが、これが町名の由来と思われる。

資料提供：京都市歴史資料館



現存した御池通周辺の町名由来

【御池之町】
この界わいは泉水が湧く山紫水明の景勝地であり、この大池の水を取り込んで造られた二条殿の庭池が「御池」と呼ばれていたことにより。平安時代に当町西側にあった鴨川の「鴨居の池」の跡を言うとの説もあります。「洛中絵図(1637)」で既に「御池丁」とあります。

御池通周辺の町名由来

【二条油小路町】
通り名に由来します。平安中期以降は二条油小路の南にあたります。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。

資料提供：京都市歴史資料館